

造血幹細胞移植推進拠点病院
カリキュラム

大阪市立大学医学部附属病院
血液内科・造血細胞移植科

2013. 12. 1.

(目的)

本研修プログラムでは、厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」の一環として選定された「造血幹細胞移植推進拠点病院」において、地域の造血幹細胞移植医療体制の底上げを図るため、造血幹細胞移植に係わる人材を育成する。

(1) 造血幹細胞移植医コース

1. 目標

1.1. 一般目標

造血幹細胞移植および採取に関する専門的医学知識と技能を有し、造血幹細胞移植が適正に実施できる専門医をめざす

1.2. 行動目標

- 1) 造血幹細胞移植の適応を判断できる
- 2) 適切なインフォームド・コンセントを実施できる
- 3) ドナーの適格性を判断できる
- 4) 造血幹細胞移植のためのコーディネートができる
- 5) 造血幹細胞移植前の準備ができる
- 6) 前処置治療を実施できる
- 7) 安全に造血幹細胞採取できる
- 8) 造血幹細胞の凍結ができる
- 9) 造血幹細胞の輸注ができる
- 10) 免疫抑制剤を適切に使用することができる
- 11) GVHD (Graft versus Host Disease) の管理ができる
- 12) 感染症の管理ができる
- 13) 移植に特有な合併症の管理ができる
- 14) 長期フォローアップにより、晩期合併症を管理できる
- 15) 移植チームを結成し、運営できる
- 16) 移植データベースTRUMPの入力ができる
- 17) 造血幹細胞移植に関する最新の情報をアップデートできる

1.3. 学会の認定医制度規定

日本造血細胞移植学会のホームページを参照

<http://www.jshct.com/organization/senmoni/index.shtml>

2. プログラム

2.1. プログラム指導者と施設

- 1) プログラム指導責任者 血液内科・造血細胞移植科部長 日野雅之(造血細胞移植認定医、血液専門医)
- 2) プログラムコーディネーター 血液内科・造血細胞移植科副部長 中前博久(血液専門医)
- 3) 大阪市立大学附属病院血液内科・造血細胞移植科

2.2. 指導体制

血液腫瘍制御学教員(血液専門医)を中心に指導を行う。指導医は定期的に研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修が進んでいるかチェックする。

2.3. 研修期間

それぞれの医師の必要に応じて、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年、2年、3年、4年コース

2.4. 研修方法

同種造血幹細胞移植患者を担当し、治療方針の決定過程、治療実施方法、治療実施中、治療後の管理方法を習得する。

骨髄採取、末梢血幹細胞採取を担当し、採取の方法およびドナー安全について習得する。

移植カンファレンス、多職種合同カンファレンスに参加し、チーム医療の実践方法を習得する。

2.5. 週間予定

	午前	午後
月	抄読会、ミニカンファレンス、診療 末梢血幹細胞採取	診療、移植カンファレンス
火	ミニカンファレンス、診療	診療
水	骨髄採取 診療	診療 多職種合同カンファレンス（月1回）
木	ミニカンファレンス、診療 移植説明・セカンドオピニオン	診療 マルク検討会（1／4週）
金	ウイークエンドカンファレンス、診療	診療

(*）抄読会

血液腫瘍学の診断および治療の最新のエビデンスを学ぶ

(*）多職種合同カンファレンス

多職種による移植カンファレンスに参加し、チーム全体で実施する全人的医療を習得する。

2.6. セミナー（造血幹細胞移植学特論）

1)	造血幹細胞移植の適応	日野雅之
2)	移植前準備	日野雅之
3)	同種造血幹細胞移植の前処置治療	中前博久
4)	同種造血幹細胞移植の合併症（急性期）	中嶋康博
5)	感染症対策	康 秀男
6)	同種造血幹細胞移植の合併症（慢性期）	日野雅之
7)	同種造血幹細胞移植の合併症対策	中根孝彦
8)	長期フォローアップ	西浦美幸
9)	同種造血幹細胞移植のチーム医療 1	看護師、花山佳子
10)	同種造血幹細胞移植のチーム医療 2	中尾吉孝
11)	患者のQOL	和田義巳、石村純子
12)	再発後の治療	中前博久
13)	同種造血幹細胞移植の臨床研究	中前美佳
14)	移植コーディネーターの役割	梅本由香里
15)	ドナーの安全管理	日野雅之

(2) 造血細胞移植コーディネーター (HCTC) コース

1. 目標

1.1. 一般目標

- 1) 同種骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植のしくみを理解する
- 2) 同種造血幹細胞採取コーディネートを支援できる
- 3) 同種造血幹細胞移植コーディネートを支援できる
- 4) 移植データベース入力支援ができる

1.2. 行動目標

- 1) ドナーの意思決定支援ができる。
(ア) 骨髄採取および末梢血幹細胞採取の方法およびリスクについて説明できる。
(イ) ドナーに必要な検査を説明し、支援できる
(ウ) 団体傷害保険について説明できる
- 2) ドナーの適格性判定支援ができる
- 3) ドナーの幹細胞提供支援ができる
- 4) 患者の意思決定支援ができる
- 5) 患者・家族の造血幹細胞移植に対する準備調整を行うことができる
- 6) 患者・家族・ドナーそれぞれの相談窓口となりチームへ情報提供することができる
- 7) 骨髄バンクおよび臍帯血バンクからの移植コーディネート支援ができる
- 8) 移植データベース TRUMP の入力支援ができる

1.3. 学会の認定HCTC制度

日本造血細胞移植学会のホームページを参照

http://www.jshct.com/organization/ctc_training2.shtml

2. プログラム

2.1. プログラム指導者と施設

- 1) プログラム指導責任者 血液内科・造血細胞移植科部長 日野雅之 (造血細胞移植認定医、血液専門医)
- 2) プログラムコーディネーター 血液内科・造血細胞移植科HCTC 梅本由香里 (認定HCTC)
- 3) 大阪市立大学附属病院血液内科・造血細胞移植科

2.2. 指導体制

認定HCTCを中心に指導を行う。定期的に研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修が進んでいるかチェックする。

2.3. 研修期間

それぞれのコーディネーターの必要に応じて、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年、2年コース

2.4. 研修方法

同種造血幹細胞提供ドナーを担当し、採取の方法やリスクなどの説明技術を習得する。

骨髄バンクドナーの最終同意の立ち会いから採取までのコーディネート支援を行う。

同種造血幹細胞移植説明に立ち会い、患者の意思決定補助を行う。

同種造血幹細胞移植予定患者を受け持ち、HLA測定から移植後フォローアップまで一連の調整を行う。

非血縁骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植のドナー決定支援、連絡調整を行う。

移植データベース TRUMP の入力することで移植の流れや合併症・疾患評価等について学習する。
移植カンファレンス、多職種合同カンファレンスに参加し、チーム医療の実践方法を習得する。
セミナー（造血幹細胞移植学特論）を受講する。
患者会・日曜セミナー等患者向けの集まりに参加し、患者支援について学ぶ。